

2024 年度 服飾奨学金事業
生活状況報告（中間報告）

2024年度服飾奨学生13名の受給期間における生活状況について下記の通り報告いたします。

1. 学生生活の状況(学業、部活、ボランティア、サークル等)

・四年生になってからは、卒業に向けて日々卒業研究に取り組むと同時に、大学院入試に向けた勉強を同時並行で進めて参りました。幸いにも6月時点で大学院に合格することができたので、大学院入学後をも視野に入れた日々の勉学に励んでおります。特筆すべきは、今年の9月11日、12日に秋田大学手形キャンパスで開催された化学系学協会東北大会に参加し、「Unique Radical Polymerization Using Guanidinium Ionic Liquids and Isouronium Ionic Liquids as Initiators」及び「Improvement of Air Stability of Trialkylborane as a Radical Polymerization Initiator and Its Polymerization Initiating Ability」という2タイトルでポスター発表をすることが出来ました。ここでの発表では多くの方々に説明を聞きに来ていただけたので、この経験は今後の大学院生活に大きく役立つと感じております。また、学会発表以降、衣料管理士(TA)取得のための最終試験に力を入れ、先日、学内の最終試験に合格することが出来ました。一方、繊維製品品質管理士(TES)資格取得も目指しているため、この方面の勉強は現在も継続しています。さらに、学内の卒業研究(「Radical Polymerization Initiating Ability of Trialkylborane Derivatives and Trialkylborane-amine Complexes with Improved Air Stability」)に関して英語での口頭発表も無事終了し、これに引き続き卒業論文の提出、及び卒業研究内容のポスター制作が控えており、今後多くの時間を割かなければなりません。

・学業面での取り組みについては、4年生になり卒業制作に集中しました。卒業制作は4月に始め、12月末に映像で提出するため、映像のテーマを決めてからすぐ服の制作を始めました。私は卒業制作をグループで行いました。グループ制作をする際に一人3ルックをデザインすることが決まりであったため、ゼミ以外で週2回集まり、パターンや制作に没頭しました。また、ゼミ内で本番の映像撮影に入る前にテスト撮影をして、私たちのグループが表現したいテーマが表現できているかを確認すること大事だとコメントされたため、テスト撮影と服制作を同時進行で行いました。グループで制作をすることによって、コミュニケーションスキルやストーリーリング方法を学びました。それから、無事に12月末に卒業制作の映像とテーマを説明できる英語版レジюмеを提出できました。

・自分自身でも少し編めるようになり、考えながら編めるようになってきたと感じました。先生への質問の質もあがって上手く編めるよう沢山教えて頂きました。余った糸を使いイヤホンケースを編むなど余りがないように使えたのも良かったです。ヘアピンでは自分でデザインを考えて5パターン作ることができました。卒業制作が始まり、テーマとデザインの決定、製図、トワル、補正、本縫いに入りました。私はアシンメトリーのジャケット、ブラウス、切り替えのマーメイドスカートとセーラーカラーのロングベストを作ることにしました。製図の段階で習ったことを活用しながらも新しいやっつことの無いデザインで分からないところは質問し解決させていきました。トワルの補正ではデザインに合わせこだわりを持ってダーツの大きさや袖の絞り具合など沢山補正しました。生地選びの際にもデザインに合う生地を探し回り色や素材妥協せずに選ぶことができました。現在は本縫いに入っています。

・服を作る授業では、一年生の時に作ったものより難しくなった、ワンピースやジャケットを作成し、デザインではレースをつけてみたりアシンメトリーにしてみたり自分なりの工夫を加えて作りました。一年生の頃に比べ計画的に行えたり、わからないところなど疑問があるところはすぐに先生や友達に聞いたり、より授業に積極的に取り組むことを意識しました。また授業で出された課題は遅れることなくだし提出期限を守ったり、遅刻や欠席をしないという当たり前のことを疎かにしないようにしました

・昨年の9月に開催されました「ナゴヤファッションコンテスト 2024」にて、世界 10 の国と地域からの応募を含む 7,470 点の作品の中からデザイン画が一次審査を通過し、作品を制作しました。初めての大きなコンテストへの参加で、デザイン画をもとに生地選びやシルエットをどのように表現するか悩みとても苦労しました。作り方や縫製仕様、作品を通して何を伝えたいかなど、試行錯誤を繰り返し、またクラスメイトや先生方の協力もあり作品を完成させることができました。その結果、最終審査会では 4 番目の賞にあたる奨励賞をいただくことができました。作品を見てたくさんの方に褒めていただけたので、うれしい気持ちと、協力してくださった友人、先生方、家族に改めて感謝の気持ちでいっぱいです。現在は、2 月に行われる学校内最大のイベント「CFC FASHION CONTEST」にむけて作品を制作中です。自分自身の顔写真を生地にプリントし、プリーツ加工をしたり生地を重ねたりしてまだ見たことのない新しい技法にチャレンジしています。いま現在は生地の加工がうまくいかず試行錯誤の最中で辛いと感じることも多いですが、あきらめずに完成目指して頑張ります。

・現在、大学での勉強はとても面白く課題や実習、授業に欠席せず積極的に参加しております。特に 3 年になってからは今まで使ったことのない皮革やカットソーなどの素材を利用した作品作りが出来て楽しみながら学校生活を過ごしております。9 月からは就職先が決まり、余裕が出来た為、今までは挑戦しにくかった生地や糸の染色、そしてモードコピー(元々ある洋服の形を抜き取る)などの自由研究にも力を入れております。また、これらをこなしつつ、大学の授業は成績を落とさないように、予習と復習を繰り返し行い良いパタンナーになるために努力しています。

・学校、バイト、1 人暮らしの生活を両立して時間をうまく使えていましたが、新しくモデルの仕事始めた影響で、少し生活に乱れが出てきてしまいました。ですが、自分が取り組みたいことに全力で取り組んでいる今、毎日が楽しく、凄く充実しています。起立性症候群という、朝起きれない病気にかかってしまい、出席できない日もあり、とても辛い時期もありましたが、自立支援の方々、学校の先生達、など親身に寄り添ってくれるか方々がいるおかげで少しずつ元の規則正しい生活に戻ってきています。また、最近は料理のレパートリーが増え、普段は朝早起きして気が乗らずに作るお弁当が今では楽しみの 1 つになっています！就職に向けて、グローバルな視野で動けるようになる為に、英語を特に集中して勉強しています。最近は、毎日 3 時間英語を勉強するようなルーティーンをつくりました。1 年間でたくさんの成長を感じられるように引き続き尽力していきます。

2. 奨学金の使途(生活費、学費、教材費等)

・奨学金を支給していただけるようになると同時に、アルバイトをやめて、すべての時間を勉学の 時間に充てるようにしています。このような状況下で、食費を中心とする生活費として、奨学金を 使わせていただいています。さらに、先に述べたように 9 月の秋田での学会発表の際にも交通費や宿泊費の一部として奨学金に助けられました。また、卒業研究を行うようになってからデータの整 理や論文作成のためにパソコンを多用するようになり、指導教官から外付けのハードディスクの必要性を指摘されたので、大学院入学後も使えるように奨学金を使わせていただきこれを購入しました。一方最近、家庭の経済的事情の急変があり、大学院に入ってから生活費はもちろん学費についても、自立してやっていく必要性が出てきたため、支給された奨学金は何とか少しでも多くの額を手元に残し、大学院入学前後の学費を含む生活費全般に充当できるよう計画を立てて、支出するように心がけています。

・支給させていただいた奨学金については卒業制作で必要な布や生地代として使用をさせていただきました。

・頂いた奨学金は卒業制作の材料費や一人暮らしの生活費の補助に使わせて頂いております。卒業制作では日暮里繊維街に行きイメージに合うよう生地を選びました。最後の作品なので妥協はせず一番良いと思った生地やパーツ、レースを買うことが出来ました。また、働き先で車が必要なため自動車学校に通っておりお金がかかるため大変助かりました。

・私には弟と妹がいて両親は共働きですが、年収は高くなく私たちの生活費や弟妹の学費などがあるため学費が重くのしかかっていて、とても経済状況が良いとは言えません。そのような状況で私の学費も必要となれば学生生活を続けることは困難になるため奨学金を借り、学校で自分の将来の夢のために学びたいと考えています。そのため貴機構の奨学金で学費を工面したいと思います。

・今回いただいた奨学金は、主にナゴヤファッションコンテストでの作品制作費を両親 に負担してもらっていたため、両親への返済に充てさせていただきました。 また自宅から学校までが遠く、通学費もかかるため定期代にも使わせていただいています。

・アルバイト代はほとんど生活費に充てておりましたので、教材や検定試験代を払うのにとっても気を遣っていましたが、今回の奨学金では、教材費や検定試験代、コンサートや作品展の見学などに使用することができました。外出先で影響を受けた景色を描くためや画力を上げるため、クレヨンや鉛筆などの画材を揃え、デザイン画の制作に役立たせることができました。 毎回 7 千円弱の検定試験代を工面するのに、生活費を削って貯めておりましたが、11 月～1 の間にある 4 つの検定試験代も安心して支払うことができました。 新しい経験をする為に出向いたバイオリンのコンサートでは、美しい四重奏を聴くことができ、地元では経験したことないことにチャレンジすることもできました。 飛騨古川へ出向いた時は、岐阜の魅力的な街並みを見学することができました。そこで開催されていた映画監督が主催している作品展では、色鮮やかなグラフィックデザインからビーズがシャワーの様に降り注ぐ装飾がとても魅力的で、デザインの発想に繋げることができました。

3. 来年度、積極的に取り組むこと

・まず、進学先の福井大学大学院に一日でも早く溶け込めるようにしたいと思います。具体的には、大学院での研究テーマに打ち込んで学生生活を過ごすというのが現時点での最低限の目標です。また、心に余裕が出来てきたら、地元を離れたことのない私には初めての土地である福井について、その文化的な背景なども調べた上で土地柄を理解できるような生活をしたいと思います。たいしたことではないかもしれませんが、日々の学校生活の合間に、頻りに福井の街中を散歩出来れば良いと思っていますし、そのことを楽しみにもしています。また、先にも記述した通り、TES の資格取得に向けて、大学院での研究活動と並行して力を入れて勉強したいと考えております。一方、大学院の博士前期課程は二年間しかないので、入学と同時に次の進路のことを考える必要があることも自覚しているので、企業研究についても力を入れたいと思っています。

・海外での就職を準備しているため、就職準備を頑張りたいです。就職の際、必要な英語の試験(Opic)を準備し、AL(Advance Level)を取るのが目標です。また、自己 PR エッセイや面接の準備などを頑張っておこなっていきたくたいです

・来年度は就職の為研修など新しい経験ばかりだと思います。分からないことを積極的に聞き、持っている知識を活かしながらも新しい技術を身につけて行けるよう取り組んで行きたいと考えています。きれいに服のお直しすることで長く着続けて頂くことが出来るような仕事が出来るように日々頑張っておきたいと思っています。土地も変わり慣れるまで大変だと思いますが全力で頑張っておきたいと思っています。

・来年度積極的に取り組みたいことは、授業で自分の興味ある教科はもちろんのこと、そのたの実験であったり素材の授業など自分の将来に直接的に関係しないかもしれないけれど服を作る上で関係のあることだと思つので様々な教科を履修したいと考えています。また授業のなかでも今までは作ることで必死だったけれど良い作品は文化祭などで展示されるので、それを目指して自分らしさや縫製で丁寧で縫うことを意識して作っていきたくたいです。

・来年度からは社会人として、日本のアパレル業界に役に立つ人材になるよう自分のやるべき仕事に 取り組みたいと思います。本配属前までお店での接客の仕事しながらお店での経験を積んで、実際にパタンナーとして働く ことになってからは私が積んだ経験をパタンナーの仕事に落とし込んで、より多くの人々が着れる ような、そして、感動できるような服作りができるよう初心を忘れず勉強をやり続けていきたくたい と思います。

・来年度は就職活動のシーズンなので、後悔のない就職先につけるよう、早め早めに準備していきたくたい と思っています。アパレル業界では SNS の活動も重要になってくるので、モデルの活動にも力を入れて、自分自身をアピールしていく場を増やしたいです。また、上記にも記載してある、英語、販売論のスキルがこの先特に必要となってくると思うので、毎日計画を立てて勉強していこうと思っています。

4. その他

・この度の公益財団法人日本へいわ財団服飾奨学生に採用していただけたことが、第一番目に挙げられ、本当に感謝をしております。この意味で改めて深くお礼申し上げます。同時に、この奨学生の名に恥じないように、残りの大学生活はもちろん、今後の人生を歩んでいく覚悟です。

・奨学金をいただけることに本当に感謝しております。今後も自分が成長できるように取り組んでいきたいと思っております。卒業制作で必要な材料費が困っていたので奨学金を頂けてカバーすることができてとても助かりました。ありがとうございました。

・この度は奨学生に選出して頂き誠にありがとうございます。金銭面の心配が補われる事でやりたい事に集中する事ができました。最後の集大成である卒業制作支援して下さった感謝の気持ちを忘れず精一杯頑張ります。

・貴団体からいただいた奨学金のおかげで、コンテスト制作では思う存分チャレンジできています。これからも新しい素材、技法を研究しデザインを学んでいきたいです。

・公益財団法人日本へいわ財団の奨学生として選ばれ、奨学金を頂くことでもっと勉強に集中することができました。勉強に取り組む時間が増えた為、一生懸命勉強した結果、文化服装学院に入学した時から入社したいと思ってきた大手企業に入社する事ができました。奨学生として一生懸命に勉強できる機会を頂いたことにありがたい気持ちを持って、これからは3年間の経験とこれから経験することを活かして日本のファッションの発展のために社会に貢献していきたいと思っております。

・日本へいわ財団様の奨学金のおかげで以前よりたくさんのごことに挑戦することができるようになり、本当に感謝しております。以前は親に負担を掛けたくないという学業以外はアルバイトに必死になり、それしか手につかない状態でした。しかし奨学金のおかげで金銭的にはもちろんですが私自身の心にも余裕ができました。心に余裕ができたことで様々なことに挑戦しようとする気持ちが次第に増えたように思います。検定やボランティアなどがその中の一つです。来年度は就職活動でアルバイトの時間が少なくなってしまうことが容易に想像できます。奨学金をいただく前はそこの金銭問題で自分の作品作りに支障が出ないか、はたまたアルバイトに必死になりすぎて就職活動がおろそかにならないか不安でした。しかし奨学金のおかげで現在のアルバイト代の多くを貯金に回すことができ、一番不安に感じていた点が解消されました。本当にありがとうございます。来年度も作品作りの中でたくさんのごことに挑戦していくことはもちろんですが、学業以外でも様々な経験を積んでいき、自分の世界を広げられたらと思います。またその経験がより良い作品作りにつながったら最高だなと思っています。心の余裕を忘れずどんなことにも楽しく取り組める自分でありたいと思います。

以上